

# ドウマンガニの完全養殖技術の研究

(予算区分 行政費 研究期間 平成30～令和2年度)

担当：水産技術研究所 開発加工科 飯田益生

## 【研究の背景とねらい】

ドウマンガニ（ノコギリガザミ類）は、浜名湖の特産種であるとともに、世界的に需要が多く、高級食材として国内外での市場価格が高いことから、養殖対象種として生産の拡大が期待されています。これまで東南アジアでは天然水域で採れる小型のカニを使った養殖が行われてきましたが、その採捕量の減少から、人工的に育てた稚ガニを使った養殖への転換が求められています。一方で、病気や発育の異常などによる幼生の死亡が多いことなどから、養殖に使う稚ガニを人工的に安定して生産することは難しい状況にあります。

この研究では、幼生の死亡原因を究明し、その防除策を確立することで、ドウマンガニ養殖を行う上で障害となっている稚ガニの安定供給を可能にすることを目指します。また、これまでに各種の甲殻類の飼育で得られたノウハウを活用して、稚ガニから親ガニまでの人工的な育成が可能なことを実証し、完全養殖技術の確立を目指します。

## 【これまでに得られた成果】

(平成30年度の成果)

- ・浜名湖産の親ガニを飼育水温や餌の種類を変えて飼育し、これまでに3個体の産卵を確認しました。今後飼育を継続して、卵や生まれてくる幼生の質を調べて比較することで、養殖に適した活力の高い幼生を得るための親ガニの飼育条件を明らかにする予定です。

## 【期待される成果】

- ・幼生の死亡原因の防除策を確立することで、養殖に使う稚ガニの安定供給が可能となり、ドウマンガニの計画的な養殖生産に繋がります。
- ・卵から親ガニまでを人工的に管理できる完全養殖の実現により、安全面や品質面を向上させた養殖生産の検討が可能となります。
- ・得られた成果を活用することで、天然資源を増やすために行われている放流用の稚ガニについても、活力の向上や安定的な生産が可能となります。

## 【今後の計画】

- ・幼生期に発生する病気の原因を究明して、その防除策を明らかにします。
- ・稚ガニになる直前に発生する発育異常による死亡を防ぐため、幼生の正常な発育を促す餌の栄養条件を明らかにします。
- ・稚ガニから親ガニまで人工的に育成できることを飼育試験により実証し、完全養殖を目指します。



図 飼育中の親ガニ（上）と産卵された卵（下）

(作成 平成31年4月)